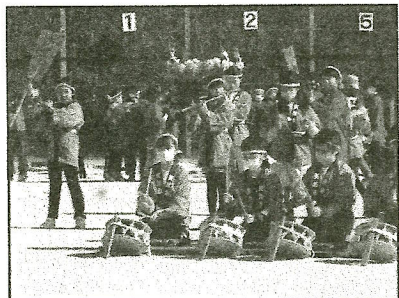




矢切小だより

矢切小ホームページ <http://www.matsudo.ed.jp/~yakiri-e/>

「心と 体と 未来をたがやす 収穫祭」



学校のサクラの色づいた葉の落葉とともに、諸行事も一つずつ終了し、子供たちの成長した活動の様子を見ることができても嬉しく思います。

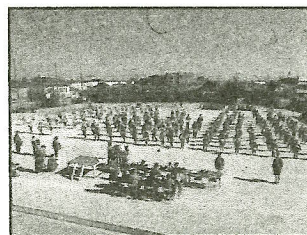
11月8日(火)さわやかな秋晴れの下、今年で42回を数える収穫祭を無事に終えることができました。今年も児童会役員が司会進行を務めました。全校児童でスローガンを言い、収穫祭が始められました。稲作畑作委員会の野菜のクイズ、今年の矢切米収穫量の発表を行いました。今年の収穫量は217kgで、ズバリ当てたピタリ賞の子もいました。6年生が分けてくれた全校児童分のお米は、各学級の代表児童に6年生から渡さ

れました。

この後は、各学年御神輿を担いで校庭を練り歩きました。矢切囃子は音楽クラブが演奏し、お祭りを盛り上げました。最後には、収穫を祝って「花笠音頭」を3学年ずつ踊りました。来賓の方も一緒に踊ってくださって会場が一つになりました。

収穫祭の後には、恒例の美味しい矢切米でのカレーライスをいただき、収穫の喜びをみんなで味わうことができた一日となりました。

さて私は、昨年4月着任以降、本校の校訓「たがやせ 心と 体と 未来を」の心をたがやすことを意識して、毎月の全校朝会で話をしてきました。10月の全校朝会には、「人が世の中を生きていくためには『信用』が大事」という話、11月の全校朝会では二宮金次郎の「たらいの水」の話を、12月の全校朝会では「自分を育てるのは自分」の話を子供たちへメッセージとして贈ってきました。学問には、本学(「人間は如何に在るべきか」という人間学)と末学(技能や知識といったものに関わるもの)があります。矢切っ子には、心をたがやす「人間如何に在るべきか」を考えられるように、これからもメッセージを伝えていきます。



もう師走、1年の最終月であり2学期の締めくくりの月です。学習・生活のまとめを行うために本校の先生方も走っています。コロナに加え、風邪やインフルエンザなど児童の健康が特に心配される時期に入ることから、ご家庭の強力なサポートが必要です。子供たちの健康管理に十分な配慮をお願いします。



今年度は、冬季休業の期間が土日祝日のつながりでいつもの年より長いです。子供たちが楽しみにしている伝統行事があります。各家庭で子供を中心に密度の濃い時間をもつていただき、家族や親戚、地域の方との絆を一層深めていただきたいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様には今年一年、本校教育活動へのご理解とご支援をいただき、誠に感謝申し上げます。特に本校の特色である稲作畑作活動では、お米と沢山の野菜を収穫する喜びを味わうことができました。ありがとうございました。皆様、よいお年をお迎えください。来年もよろしくお願いいたします。

今月の話

「自分を育てるのは自分」

自分がどんな人間になりたいかをしっかりもち、決めたこと実践していくことが大切になります。例えば、言葉をていねいに使う。あいさつは自分からする。感謝することを忘れない。時間を大事にする。卑怯なことをしないなど。